令和８年度　全国学力学習状況調査から

羽曳野市立古市小学校

１.調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

●全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

●学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

●そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

２.調査対象　　小学校６年生

３.調査日時　　令和８年４月２３日（木）

４.調査結果分析

	本校の結果や課題	課題解決に向けた手立て
国語	【成果】思考・判断・表現の「読むこと」区分における問題の正答率は、全国 65.9%に対して本校 67.2%（+1.3pt）であった。また、昨年度に比べ学校の正答率も+13.7pt 上昇していた。 （令和７年は 53.5%、令和８年は 67.2%） 【課題】国語の記述式の問題の正答率は、全国 54.9%に対して本校 50.7%（-4.2pt）であった。	・全国学力・学習状況調査において「思考・判断・表現」に課題が見られたことから学校全体で各教科において「書く力の育成」に力を入れてきた。この取り組みの結果、文章を読み、必要な情報を捉え、自分の考えを表現する活動を継続してきた。「書く力の育成」が結果として「読む力」が大きく向上した要因だと考える。 ・学校全体で系統立てて「書く指導」に取り組んでいく中で、全国との記述式の正答率の差が縮まってきている。書く機会を増やすことで、一定の成果はみられるが、一方で、問題の条件や目的をふまえ、必要な情報を選び、自分の考えと結び付けて表現することに課題が見られる。「書く機会を増やすこと」から、「何を求められているか捉えてから書く」という目的をもって書く経験を積み重ねる必要がある。
算数	【成果】算数における「思考・判断・表現」区分における問題の正答率は、令和７年は 36.9.%に対して令和８年は 39.0%と、2.1pt 上昇していた。また、昨年度に比べ、記述式の正答率も、令和７年は 23.1%から令和８年は 41.2%と、18.1pt 上昇していた。 【課題】知識・技能を問う問題において正答率が全国 60.１%に対して本校 46.7%（-13.4pt）であった。	・算数科においても、自分の考え書く力の育成に力を入れている。書く活動を通して、「考える・根拠を持つ・表現する。」という、「思考・判断・表現」の力がついてきている。今後も「振り返り」などを通して、自分の考えを根拠を基に表現する力の育成を続けていく。 ・一辺 ８ｃｍの立方体の体積を求める問題に対して、正答率が大きく下回った。式を求められた際、「8+8+8」を選択する児童も多く、５年の時はできていたことを考えると、ドリルパークなども活用し、既習事項を定期的に復習する必要もある。また、なぜ「8×8×８」になるのか理由を説明させる経験を学校・家庭両方で取り組むことが必要だと考える。

	1．古市小学校の強み（成果と誇れる点）	2．今後重点的に取り組む課題（手立て）
児童質問紙より	【学習面】「先生は、間違えたところを分かるまで教えてくれる」に対する肯定的回答が本校 97.0%（全国 87.3% / +9.7pt)、「先生は、自分の工夫や良さや成長を伝えてくれた」が本校 89.7%（全国 78.1% / +11.6pt）と、先生に対する信頼感の高さもうかがえる。これからも、一人ひとりに寄り添い、子どもたちの良いところを認める授業を心がけていく。 【ICT 関係】「ICT 機器を使ってプレゼンテーションを作成する」の肯定的回答が本校 89.8%（全国 74.6% / +15.2pt）と非常に高く、否定的な回答はわずか 5.9%にとどまる。低学年からの日常的な活用指導が実を結んでいる。中学年以降では、考えを入力して共有したり、Canva でプレゼンテーションの資料を作って発表したりする学習に取り組んでいる。こうした低学年から積極的にタブレットを活用させる教師の働きかけを継続していく。 【意識面】「学級では人と違う意見を言っても否定されない」が本校 82.4%（全国 69.6% / +12.8pt）と失敗を恐れず安心して発言できる環境が整っていると感じている。「将来の夢や目標を持っていますか」では、全国比より高く、また、肯定的な回答の児童ほど、正答率も高いことから、なりたい姿が明確な児童ほど、途中で壁にぶつかっても諦めずに挑戦し続ける姿勢が身についていると考えられる。そのため、「どんな自分になりたいか」を子どもに意識させることは、非常に有益であると考える。 【生活面等】「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に 9 割以上の肯定的な回答があり、「人の役に立ちたい」という強い思いをもっている児童が多い。実態をふまえ、子どもの長所を理解しながら、誰かの役に立つ経験をさせていきたい。	【学習面】「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」においては、全国の家庭学習時間を５ポイントほど下回った。家庭学習を促進し、自主学習を進めるにあたって、すでに取り組んでいるピカリノートの掲示や朝礼での紹介を継続し活性化させる機会を作っていきたい。 【ICT 関係】平日に「４時間以上」SNS の利用やや動画視聴をして過ごす児童が 29.4%いることが分かる。全国平均比較すると、8.5%上回っている。調査対象の６年生は帰宅が３時半以降であることを考えると、余暇時間のほとんどを SNS の利用や動画視聴に費やしていることがわかる。秋に予定されている教育講演会などを利用し、家庭と連携して SNS の利用での発達への影響や危険性を伝えていく。 【意識面】「算数の問題の解き方が分からない時に諦めずに考えた」児童は本校 67.7%（全国 80.1% / -12.4pt）と低く、途中で諦めてしまう傾向があることが分かる.①学び方の選択肢を具体的に提示する②スモールステップでの成功体験をさせる③自分の力で解決できる問題から取り組んでいく。④友だち同士で交流して取り組むことなどで、少しでも達成感を感じられるように学校・家庭両方で粘り強く取り組んでいく。 【生活面等)】「15. 学校に行くのは楽しいと思いますか」という設問で肯定的な回答をした児童は 81.9%で、全国（85.7%）を約３%下回った。 学校に行くことを楽しいと思わないと感じる原因として、「学習がよく分かるかが影響している」と考えられる。「友達関係に満足はしているが、勉強はついていけない」という層がいる点が現状の課題である。どの子も安心して学べる場の設定、授業づくりの工夫、友だちとのグループワークを取り入れる等、工夫が必要である。

	【生活規律】「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」　「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に対して肯定的な意見が９割を超えた。保健委員会を中心に早寝早起きのスローガン、「起きよう、セブン」で規則正しい生活を送るよう児童らに呼び掛けていることも浸透している結果だと考える。今後も継続して行っていく。	【生活規律】R7 年度では朝食を食べていない児童は０％だったが、R8 年度は、5.9%（４人）となっている。理由として、「朝食の準備がない」「食べる習慣が身についていない」が予想されるが、遅刻や寝坊のために食べていないことも考えられる。学習への集中力アップのためにも、家庭と協力をして取り組みを続けていく。 ・「放課後や学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、地域の図書館（電子図書館を含む）にどれくらい行きますか。」という質問に、「全くいかない」と答えた児童が４５％を超えていた。古市複合館に古市図書館が入っている事を子どもたちに伝えるなどして、利用を促していきたい。